

天文錦の緒
全



特42
605
四
六

056209-000-1

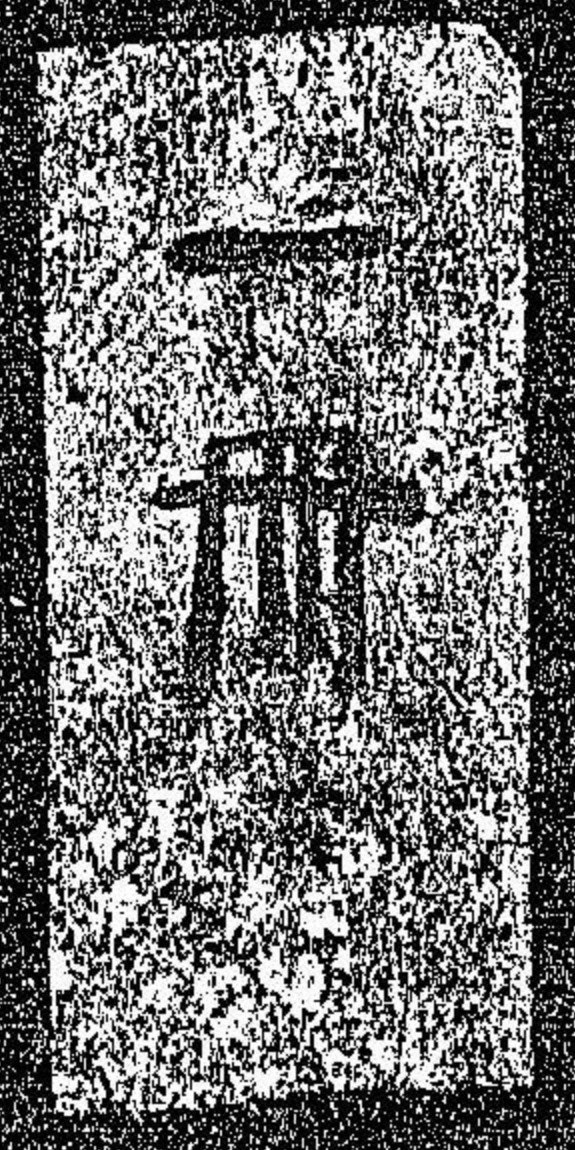
特42-605

天文錦の緒

吉良 儀風 / 述

M6

CAK-0098



吉良儀風述

天文錦の緒

明治六癸酉
孟春新鐫

中外堂發兌

42
605

天文錦の緒
四海一家兄弟。親交
際。友年の時勢の幸福目出
度。人愛よ生活するやまの
地球を世界を福と爲く
れ。錦の實の

天文錦の緒

如くもて南極ハ少平みて
 大空ハさうある澄て表多く
 是ハある星の「命」日ハ是
 大陽の周圍をたなす廻る。
 極星數多の其中ハ命人
 物ハあり木星土星海王星

天ハ金星ハ地球ハ星
 水星ハあり。皆此地球の
 世界有る見具ハ相成
 星の本體ハ暗體なれど大
 陽の光ハさう入る反照ハ我地
 球ハ其の他の世界

沖より来る船を見れば
 ハアの櫓末より遠く
 舟の艦をみる可也
 又船は南洋中より陸地
 山を越え始む山の頂
 身は次は豊島磯子の

家を見ゆし又我國を極
 まであへると船は終る
 本の者國の東の方に歸る
 又月蝕を月と目此
 有に地球の狭きりの光
 遠く隔る者月を光を

天文録の終

尖山と此月丸と關ぬハ
 地球の丸は新と志す世丸
 地球の東より西へ省
 中緯赤道直に辨
 たり。其周半を尋るハ
 二萬八千里程と此赤

南山の次より北
 丸き者又赤道より北
 南二十一度半より二至
 線と云ふ事
 緯線二五線
 中を熱帯と云ふ
 四時季
 張の事なりと暑き事甚し

新あり。又南北の両側
 を。温帯と。号。た。此
 以時候。乃。程。先。と。春。夏。秋。
 冬。順。序。あり。其。行。の。廣。さ
 四。十。二。反。夫。り。端。の。南。北
 を。兩。極。と。云。寒。帯。と。す。

何時と。寒。帯。の。強。く。し。人
 畜。等。未。だ。て。氷。の。海。と
 あり。と。し。此。處。を。し。と。隨。

第一。と。云。平。行。線。と。云。又。小
 極。と。云。南。極。と。云。引。た。る。所。に
 子。線。と。云。經。度。と。緯。度。と。

見令。何處の事と地理
 國より地球儀なる此器械
 此國を以て見悟せよ。
 吾日本は赤道より山温
 帶の位置一光中五
 二の事なり。此地球儀を

三分海と一
 分は陸地とあり。此の事
 其儀より國を以て西細
 亞非利加歐羅巴亞細
 亞の亞米利加と大洋
 洲の六なり。吾日本は西細

三海の東ありて東あり。
 海をい左半洋と云。河も
 下流の二大洋を
 我地球の三大洋相大
 陽の光を多く受く如
 小多く如あり。我日東の昼

英吉利の夜あり。
 爰一の燿を主軸の照
 る人時に其半分の明あり。
 左半分の暗なるは是
 左半分の極
 球の右半を軸
 軸
 西

東と自轉する昔の時より
 今に變じて二十四時の
 一及廻り来る昼夜を
 一日の月圓を一廻り
 する時を三百六十五日
 といふ一周年と

地球の公轉がある。此
 行進の速は一時より一
 半千里より一陽運動
 西進行するに實
 地球の自轉も一陽
 運動と物と此公轉の

おとくに人海に遊んで居る。
 又遠くは或時に直も
 ありし斜も季節の道に寒
 暑あり。四季の夜及地
 海のありし。海を以て
 夜にまゝ。名は心も

して。衆目おれ及い又
 米利加海の南ある地鯉の
 國なるみ。地球の中
 心力といふ。此より引ける力あり。
 物を投ねる地。空に皆
 川力此。衆も。求心力

力此衆も

如重心の力と云物なり。
 日月星辰其位の定まり究
 む事い神事と。相成
 を中心と云るを是と
 廻るなり。此
 太陽の大地の地球の周圍

の様る事。百三十八萬四千。
 四百七十一億と云。金種八十
 億と云。九百五十二億と云なり。
 一億の年を禮と云。光
 温氣を厚中と云。其
 者よその中を尊と云

二十七日は一日
 自轉を是れ向て
 被る處の云を此地
 へるを盈五度とす
 月が地球より四十
 九倍のやうな全徑二
 千百

八十里地球を二十四萬里
 距離のさうな地球の
 影の邊も満月の光
 望の子の後の太陽の
 なるも地球より
 満面の光線なる

乃ち亦、地球の間に、又、
 大陽と地球の間に、
 接する事なれど、朔日二日
 の間は、
 月を固着し、たるゆゑ、
 月の影を海にたらしむ。

今朝日の影は、
 月を固着し、たるゆゑ、
 月の影を海にたらしむ。

主惑星より従惑星の如
 目の事少く流星と云
 主惑星の周囲を廻り大
 陽を主として廻る地
 球の軌道惑星に軌道を
 補う道多し従惑星は

旋轉の自軸を繞る主惑星
 を繞る轉主惑星より又
 従主太陽を繞る轉主
 惑星よりゆきの二層あり
 太陽より三位の地球あり
 あり。水金地火星あり。

火星を始り、水星、金星、地球、火星、木星、土星、天王星、海王星の順に、
 水星は太陽から約五億七千万キロ、金星は約一億一千万キロ、地球は約一億五千万キロ、火星は約二億二千万キロ、木星は約七億七千万キロ、土星は約九億五千万キロ、天王星は約二十九億九千万キロ、海王星は約四十五億九千万キロの距離にある。

八十八日、地球は太陽の周りを一周する。地球の自転は一日、公転は一年である。地球の半径は約六千三百七十里、地球の質量は約六千億トンである。地球の重力は約九・8メートル毎秒毎秒である。地球の平均気温は約十五度である。地球の平均湿度は約七十パーセントである。地球の平均気圧は約一気圧である。地球の平均風速は約二メートル毎秒である。地球の平均降水量は約一メートルである。地球の平均日照時間は約十三時間である。地球の平均日照量は約三十万時間である。地球の平均日照量は約三十万時間である。

金星は六日の距離七十七
 百里地球より行はれは十
 一細く大陽より六
 千の百里自轉は二十
 半公轉二百二十四日半
 をして一週を一時とす

七百五十里を越へて熱帯の
 地球より一倍強く一歳は
 直下の二夏二冬を兩極
 の方のより及ばぬものなり
 我地球より暁の明
 り星とす相方の始

の
此軌道より多の母微細
熱度地球のま

の
小星五十七顆同位より廻
え一の惑星は地球の
多なるも惑星一は分教せ

其形粗朴よりありて尖

木里の最大の惑星より
地球より千三百八十倍全徑
八萬七千里大陽距離は四
億八千萬里の距離あり

自轉じくせんは十時じゅうじ公轉こうせんは十二時じふにじ
 三百金さんひゃくご一いつ周しゅうなるなり進行しんこう
 一時いつじのあひび行びるる三さん万里万里四よ如ごと
 木星せいせい流りゅうひひくくままのの星せいせいをを繞りょうるる
 氣き候こうをを四よ時じのの
 帯たい黒くろ帯たい等たう

相繞あひりょうり。先熱せんねつのの度どは地球ちきゅう
 二十にじゅう七しち倍ばい減げんししるること。
 土星どせいは大小たうせうのの木もく星せいせいよりより繞りょうるる
 地球ちきゅうのの千せん倍ばい様ようにに
 全徑ぜんけいは十じゅう萬まん九きゅう千せん里り程ほどなり。
 距離きょりは八はち億いっぴやく九きゅう千せん萬まん里り。自

百里。清星と。八流の光熱
 地より減す九十倍。
 天王星の地球より大なる
 事八十倍。太陽距離十
 八億里。自轉一日十八時。
 公轉一周八十四年。一時の

一萬五千里を速く行きて
 光熱の地球より減す
 事三百六十八倍。清
 星四東より。西より進る方
 向を。他の流星より大なる。
 海王星の地球より大なる。大

陽を廻れお日見

ま

秋多々天渥星の集

流星集

石の集

一井一陸の管

天文彙編の方

人々楽は

化の盛代

幸々

文明

書肆

東京室町三丁目

紀伊國屋源兵衛



三ノ金口糸

六七

